

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(1) 様々な地理的技能	地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有効性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。	〔位置、方位、時差〕 ・地球上の任意の2地点の緯度・経度を基にして、2点の南北の位置関係及び東西の位置関係を考えるとともに、簡単な時差の計算ができる。
	ア 地理情報と地図 地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる。	〔地球儀、世界地図〕 ・世界地図は、作成された時代や地域のもつ世界観が関わっていることを理解する。 ・球面上の世界は、平面上の地図には距離・方位・角・面積の全てを正しく表現できないことを知る。 ・地図は作成目的により一般図と主題図に分けられ、主題図には土地利用図や統計地図などがあることを知る。
	イ 地図の活用と地域調査 直接的に調査できる地域の地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。	〔地形図の読み方〕 ・地形図は地表の様子を描くために等高線と地図記号を用いていることを知る。 ・田・畑・果樹園・桑畑の地図記号を理解し、土地利用を読み取ることができる。 ・地形図は数年おきに修正され、発行されているため、旧版の地形図が存在することを知る。
		〔地域調査〕 ・地域調査の基本的な方法や課題設定から発表までの流れを知る。 ・調査結果を図表や地図にまとめて表現する方法を知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
〔位置、方位、時差〕 ・地球上の任意の2地点の緯度・経度を基にして、2点間の位置関係(南北及び東西)を考えるとともに、時差を求めることができる。	〔位置、方位、時差〕 ・地球上の任意の地点の緯度・経度を基にして、 ^{ない} 対蹠点の位置や他の地点との位置関係(南北及び東西)を考えて、時差を求めることができる。
〔地球儀、世界地図〕 ・古代バビロニア・古代ギリシア・中世ヨーロッパの各時代の世界図を作成された順に並べることができる。 ・メルカトル図法で作成された世界地図において、任意の2地点を結ぶ直線が2点間の最短距離を示さないこと、面積が高緯度になるほど拡大されていることを理解する。	〔地球儀、世界地図〕 ・古代バビロニア・古代ギリシア・中世ヨーロッパ・大航海時代以降の世界図を作成された順に並べることができる。 ・メルカトル図法で作成された世界地図において任意の2地点を結ぶ直線が2点間の等角航路を示すことを理解し、最短距離となる大圏航路を求めためには正距方位図法等を必要とすることを理解する。
・統計地図には、様々な地図表現があることを理解するとともに、目的に応じて分布図や階級区分図などの統計地図を作成することができる。	・分布を示す統計地図を基にして、地域の特殊性を説明できる。
〔地形図の読み方〕 ・国土地理院発行の地形図において、提示された縮尺を用いて実際の距離を求めることができる。 ・地図記号を読み取り、田・畑・果樹園・桑畑などの彩色を変えることで土地利用図を作成できることを理解する。 ・地形図を同じ地域の旧版地形図と比較することで、地域の変容を調べられることを知る。	〔地形図の読み方〕 ・地形図において、等高線間隔から縮尺を読み取り、実際の距離を求めることができる。 ・地形図を基に、土地利用や集落の位置から地形と人間生活の関わりを説明できる。 ・同じ地域を描いた発行年の異なる地形図を比較し、地図記号等を読み取って、地域の変容を考察することができる。
〔地域調査〕 ・地域調査の方法として直接現地で行う方法と学校の図書館などで文献や資料を利用する方法を理解する。 ・調査結果を、図表、地図などで表現する適切な方法を選択できる。	〔地域調査〕 ・生活圏の課題を設定し、地形図の読図や文献資料の精読を行い、その上で現地での観察、見学、聞き取りなどの調査活動を行うことができる。 ・調査結果を分析し、まとめ、適切な図表や主題図などを用いて表現し、発表することができる。

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(2) 世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。	ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活などのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。	〔自然環境と人間生活〕 ・環太平洋造山帯、アルプス＝ヒマラヤ造山帯からなる新期造山帯では、地震や火山が多くみられることを知る。 ・世界や日本の主な地形の特色と人間生活との関わりについて知る。 ・気温の水平的変化を緯度と関連付けて知る。 ・大気の大循環の仕組みを踏まえ、亜熱帯高圧帯と乾燥気候の分布が概ね重なることを知る。 ・地球上には砂漠化をはじめ様々な環境問題があることを知る。
	イ 資源、産業 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。	〔農林水産業〕 ・世界の農業は、形態や規模などにより、様々な農業地域に区分できることを知る。 ・米と小麦について、主な生産国、輸出入国を判別できる。 〔工業〕 ・工業は、原料産地と市場との位置関係によって、生産費用が最も少なくなる場所に立地する傾向があることを理解する。 ・世界の主な工業地域の分布を知るとともに、工業

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
〔自然環境と人間生活〕 ・新期造山帯が地震や火山の多い地域であることを理解し、プレートテクトニクス理論におけるプレート境界を3種類に分類できることを理解する。 ・世界や日本の主な地形について、その成因や人間生活との関わりを理解できる。 ・気温の水平的分布の特徴を、緯度や水陸分布と関連付けて理解する。 ・ケッペンの気候区分の概要や世界の植生の概要を大気の大循環の仕組みと関連付けながら理解する。 ・環境問題について、例えば、砂漠化は砂漠の中心でなく、周辺部で起きている問題であることを理解する。 〔農林水産業〕 ・世界の主な農業地域の分布とその特徴を理解するとともに、それらは、自給的農業、商業的農業、企業的農業の三つの農業地域に分類できることを理解する。 ・主要な農林水産物について、主な生産国、輸出入国、貿易量を比較し、それぞれの農産物の特徴を理解する。 〔工業〕 ・輸送費を基に原料指向型工業と市場指向型工業の立地を理解する。 ・世界の主な工業地域の分布とその特徴を理解する	〔自然環境と人間生活〕 ・大山脈や弧状列島、海溝、海嶺の分布を、プレートテクトニクス理論におけるプレート境界と関連付けて説明できる。 ・世界や日本の主な地形について、その成因や人間生活との関わりを説明できる。 ・平均気温や気温の年較差の水平的分布の特徴を、緯度、水陸分布、海流などの気候因子と関連付けて説明できる。 ・ケッペンの気候区分の概要や世界の植生の概要を大気の大循環の仕組みと関連付けながら説明できる。 ・様々な地球環境問題について、問題の成因を考察し、現状を理解する。例えば、サヘル地域の砂漠化の原因として、過放牧や薪炭材の伐採という人為的な問題があることを理解する。 〔農林水産業〕 ・世界の農業地域区分は、自給的農業が主にアジア・アフリカ、商業的農業がヨーロッパ、企業的農業が新大陸に分布することと、その要因について説明できる。 ・主要な農林水産物について、例えば、国際商品としての小麦を、主な生産国、輸出入国、貿易量を米などと比較したり、小麦カレンダーを用いたりして、その特徴を説明できる。 〔工業〕 ・工業をその性質から原料、市場、労働力、集積、交通の五つの立地指向型に分類して説明できる。 ・新興工業国が台頭した背景には、安い人件費と豊

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 人口、都市・村落 世界の人口、都市・村落に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。</p> <p>エ 生活文化、民族・宗教 世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。</p>	<p>生産力の高まりが、国や地域の経済発展につながることを知る。</p> <p>〔流通・消費〕 ・交通・通信、貿易、商業、観光の世界的な結び付きや動向について知る。</p> <p>〔資源・エネルギー、食料問題〕 ・世界のエネルギー資源や鉱産資源の生産地には偏在性があることを知る。</p> <p>・世界の食料の需要と供給には大きな偏りがあることを知る。</p> <p>〔人口、都市・村落〕 ・世界の人口分布について知る。また、人口増加は自然増加と社会増加からなり、人口増加の多くは発展途上国で起きていることを知る。</p> <p>・発展途上国において急速な都市人口の増加が起きていることを知る。</p> <p>・先進国では出生率が低下していることを知る。</p> <p>・都市・村落の立地、形態、機能を知る。</p> <p>〔生活文化、宗教・民族と人間生活〕 ・世界の衣食住について、分布と主な地域の特色について知る。</p> <p>・キリスト教、イスラーム、仏教の大まかな分布と特徴を知る。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>とともに、アジアNIEs、ASEAN諸国、BRICsなど、時代によって工業生産力を大きく伸ばした国や地域が異なっていることを理解する。</p> <p>〔流通・消費〕 ・世界の交通・通信、貿易、商業、観光の発達と地域差について理解する。</p> <p>〔資源・エネルギー、食料問題〕 ・世界のエネルギー資源や鉱産資源の生産地には、偏在性があり、消費地にも特性があることを理解する。また、省エネルギーやリサイクル、再生可能エネルギーについて理解する。</p> <p>・世界の栄養不足や飢餓は、主に発展途上国で起きていることを理解するとともに、先進国での課題についても理解する。</p> <p>〔人口、都市・村落〕 ・人口転換について理解するとともに、高い人口増加率は、出生率の高い多産少死型の人口動態を示す国や地域で見られることを理解する。また、主な国際的な人口移動について理解する。</p> <p>・発展途上国における急速な都市人口の増加は、農村から都市への急速な人口移動による要因が大きいことを理解する。</p> <p>・先進国では出生率の低下により少子高齢化が進んでいることを理解する。</p> <p>・都市の内部構造や都市化、都市圏、都市問題について理解する。</p> <p>〔生活文化、宗教・民族と人間生活〕 ・世界の生活文化の地域的差異について、自然環境との関わりから理解する。</p> <p>・世界各地に伝播している宗教が世界宗教と民族宗教に分けられることを理解する。</p>	<p>富な労働力、積極的な外国からの資本技術の導入があったことを理解するとともに、世界の主な工業地域の課題について理解する。</p> <p>〔流通・消費〕 ・世界の交通・通信の発達と関連付けて貿易、商業、観光の変化やその課題について理解する。</p> <p>〔資源・エネルギー、食料問題〕 ・世界のエネルギー資源や鉱産資源の偏在性を捉え、日本における石油備蓄の必要性とともに、世界の資源・エネルギー問題の動向とその解決に向けた動きについて理解する。</p> <p>・発展途上国の食料不足の主な要因とその解決に向けた動きについて説明できる。</p> <p>〔人口、都市・村落〕 ・人口ピラミッドの形状から、国や地域が人口転換のどの段階に当たるかを判別できる。また、国際的な人口移動の近年の動向と課題について理解する。</p> <p>・発展途上国における都市人口率の高まりと居住・都市問題の発生について説明できる。</p> <p>・先進国の少子高齢化の特徴を理解し、今後起こりうる課題や出生率が上昇した事例を説明できる。</p> <p>・都市問題の解決に向けて、都市計画や都市の再開発が行われていることを理解する。</p> <p>〔生活文化、宗教・民族と人間生活〕 ・世界の生活文化について、地域差が縮小したり、画一化したりしているなどの、近年の変化を説明できる。</p> <p>・世界各地の宗教の分布と民族の関係をおおまかに説明できる。</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>(3) 現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。</p> <p>ア 現代世界の地域区分 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の疑念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気付かせる。</p> <p>世界の地誌的考察</p>	<p>・言語や宗教の異なる民族が一つの国家の中に存在することを知る。</p> <p>〔領土問題〕</p> <p>・国家の領域が、領土、領海、領空からなることを知る。</p> <p>・我が国が当面する領土をめぐる問題や経済水域の問題について、我が国が正当に主張している立場を理解するとともに、国境のもつ意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを理解する。</p> <p>〔世界の地域区分〕</p> <p>・様々な指標を用いることで、様々な地域区分の方法があることを知る。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、ユーラシア大陸をヨーロッパとロシア、アジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分できる。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、アフリカを北アフリカと中南アフリカに区分できる。</p> <p>・例えば、州・大陸による地域区分では、アメリカを南北両アメリカ大陸に区分できる。また、文化による地域区分では、アメリカをアングロアメリカとラテンアメリカに区分できる。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・同じ国の中で異なる言語を使う民族が存在する場合、複数の言語を公用語としている国があることを理解する。</p> <p>〔領土問題〕</p> <p>・領海の外側に設けられる排他的経済水域を理解する。</p> <p>・国境には自然的国境や人為的国境があることを理解する。また、日本固有の領土である北方領土問題と竹島、尖閣諸島の現状について歴史的経緯を踏まえて理解する。</p> <p>〔世界の地域区分〕</p> <p>・地域区分の方法として、自然環境や文化的な特色などが指標として利用できることを理解する。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、ユーラシア大陸をヨーロッパとロシア、アジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分し、各地域の関連性や共通性を理解する。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、アフリカを民族的、文化的な相違から北アフリカと中南アフリカに区分できる。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、オセアニアを、オーストラリア大陸、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分できる。</p>	<p>・中東地域におけるパレスティナ問題のように、宗教や民族の違いに基づく対立の解消は容易ではないことを理解する。</p> <p>〔領土問題〕</p> <p>・大陸棚の開発によって、資源の占有権をめぐる問題が発生することを説明できる。</p> <p>・自然的国境や人為的国境の特徴と具体的な例を挙げることができる。また、日本固有の領土である北方領土問題と竹島、尖閣諸島の近年の動向と我が国の主張の正当性について歴史的経緯を踏まえて説明できる。</p> <p>〔世界の地域区分〕</p> <p>・地域区分の方法として、大陸や州、気候帯等の自然環境、政治や経済、文化等の社会環境など、様々な指標により地域区分できることを理解する。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、ユーラシア大陸をヨーロッパとロシア、アジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分し、各地域の共通性や関連性を説明できる。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、アフリカを民族的、文化的な相違から北アフリカと中南アフリカに区分して考えることの必要性を説明できる。</p> <p>・例えば、文化による地域区分では、文化的な相違から、アメリカをアングロアメリカとラテンアメリカに、オセアニアを、オーストラリア大陸、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分して考えることの必要性を説明できる。</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>イ 現代世界の諸地域</p> <p>現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身に付けさせる。</p>	<p>〔世界の諸地域、東アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、中国の人口の規模や分布と人口問題を、「一人っ子政策」を踏まえて知る。また、中国には多くの少数民族が居住していることを知る。 ・例えば、2000年以降の中国で見られた経済の急速な発展と社会の変化を知る。 <p>・例えば、韓国の急速な発展や日本との文化交流について知る。</p> <p>〔世界の諸地域、東南アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、東南アジアの自然環境と多様な民族構成（マレー系、中国系、インド系など）について知る。 ・例えば、東南アジアの大部分が熱帯に属していることや、その気候に応じて様々な農業が展開されていることを知る。 ・例えば、東南アジアの経済組織である東南アジア諸国連合（ASEAN）の成立と加盟国を知る。 <p>〔世界の諸地域、南アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、南アジアの自然環境と多様な民族構成や宗教構成（イスラーム、ヒンドゥー教、仏教）について知る。 ・例えば、インドの人口が中国に次いで世界2位であることを知り、その多くが信仰するヒンドゥー教徒の生活について、基本的なことを知る。 ・例えば、インドにおける稲作・小麦・茶・綿花・落花生など伝統的な農業について、モンスーンの影響を踏まえて知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>〔世界の諸地域、東アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、中国の人口問題には、将来の高齢社会の問題が含まれることを理解する。また中国には、一部に民族問題が起きていることを理解する。 ・例えば、近年の中国の経済発展と社会の変化を、1970年代後半の改革開放政策導入から1980年代、冷戦終結後の1990年代、2000年代の急激な成長期に分けて理解する。 ・例えば、朝鮮半島の歴史を踏まえた上で韓国と北朝鮮の現状を理解する。 <p>〔世界の諸地域、東南アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、東南アジアは多様な民族や宗教の構成であることを歴史的な経緯を含めて理解する。 ・例えば、東南アジアの農業形態は、原始的な焼畑農業や植民地時代からのプランテーション、「緑の革命」以降の近代的な稲作など様々なものがあることを理解する。 ・例えば、ASEANの成立の背景や、域内の工業化の進展・政治的安定にASEANが大きく寄与したことを理解する。 <p>〔世界の諸地域、南アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、南アジアは、多様な民族や宗教の構成となっていることを、歴史的背景を含めて理解する。 ・例えば、インドは言語や宗教が多様で、カースト制の伝統的な制度や価値観が、社会問題に発生していることを理解する。 ・例えば、独立後のインドの鉱工業の近代化について、地下資源分布と重ね関連付けて理解する。 	<p>〔世界の諸地域、東アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、中国の人口問題について説明することができる。また、民族問題について、いくつかの具体例を挙げて説明することができる。 ・例えば、近年の中国の経済発展と社会の変化を、改革開放政策導入以来の国際環境の変化や歴史的経緯を踏まえて理解するとともに、経済的地域間格差や環境問題について説明できる。 ・例えば、韓国と北朝鮮の現状を理解した上で、日本との交流の在り方について考えることが重要であることを理解する。 <p>〔世界の諸地域、東南アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、東南アジアでは民族・宗教的な問題とその解決に向けた取組について、いくつかの具体例を挙げて説明できる。 ・例えば、東南アジアでは近年、品質管理や流通の進歩により日本など海外に向けた農産物・水産物の輸出が盛んになってきていることを理解する。 ・例えば、近年はASEANのみならず、アジア太平洋経済協力会議（APEC）や環太平洋経済連携協定（TPP）など日本やその他の国々と多層的な経済関係の構築に取り組んでいることをその必要性も含めて理解する。 <p>〔世界の諸地域、南アジア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、植民地支配の影響等でカシミール問題やマクマホンラインなどの領土問題が存在することや、スリランカにおける民族紛争などについて理解する。 ・例えば、インドの人口増加とその社会的背景、居住・都市問題について理解する。また、近年の新しい文化や価値観が受け入れられている社会の動向を理解する。 ・例えば、インドでは工業化が進み、さらにIT産業を主力産業として経済発展していることを説明できる。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
	<p>〔世界の諸地域、西アジア・中央アジア・北アフリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、西アジアや北アフリカの自然環境（乾燥気候など）と人間生活について知る。 ・例えば、この地域は原油や天然ガスなどの天然資源に恵まれた地域であることを理解し、この地域から日本に多くの資源が輸入されていることを知る。 ・例えば、この地域にはイスラームが広く普及していることや、その基本的な教えについて理解する。 <p>〔世界の諸地域、中南アフリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、アフリカにおける民族対立の大きな原因として、民族分布境界線と一致しない植民地分割線があることを理解する。 ・例えば、一次産品輸出に依存するモノカルチャー経済は植民地経済に由来し、この地域のほとんどの国が発展途上国である一因になっていることを知る。 ・例えば、南アフリカの工業発展について知る。 <p>〔世界の諸地域、ヨーロッパ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ヨーロッパ諸国がEUという国家間統合組織を設置し、その加盟国が増加してきたことを理解する。 ・例えば、ヨーロッパは東西南北それぞれにおいて、民族や宗教の面で多様性が見られる一方で、大半の地域がキリスト教文化を共通のアイデンティティとしていることを理解する。 ・例えば、ヨーロッパの主要な工業地域の分布を知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>〔世界の諸地域、西アジア・中央アジア・北アフリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、西アジアや北アフリカにおいて、カナートなど地下水路を導入して乾燥気候を克服してきたことを理解する。 ・例えば、国際石油資本（メジャー）に対抗して、石油輸出国機構（OPEC）等を結成し、油田を国有化して、石油価格に大きな影響を与えるようになったことを理解する。 ・例えば、中央アジアの国々はかつてのソビエト連邦の一員であり、20世紀末頃に独立した後も、ロシアの社会的な影響が見られることを理解する。 <p>〔世界の諸地域、中南アフリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、アフリカの経済発展を阻む要因の一つである民族対立が、列強による植民地分割を背景にもつことを理解する。 ・例えば、植民地が独立国になっても、モノカルチャー経済から脱却できずにいる理由を理解する。また、この地域では一人あたりの国民総所得の低い国が多いことを理解する。 ・例えば、南アフリカが地下資源に恵まれていることや工業発展の歴史的経緯を理解するとともに、アパルトヘイト撤廃について理解する。 <p>〔世界の諸地域、ヨーロッパ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ヨーロッパ諸国がEUという経済的、政治的統合に向かっていることを理解するとともに、統合への課題について理解する。 ・例えば、大半の地域がキリスト教文化を共通のアイデンティティとしているヨーロッパでも、東西南北それぞれにおいて民族・宗教などに一定の地域性が見られることを理解する。 ・例えば、ヨーロッパの工業は、その多くが産業革命以来炭田立地の工業地域として発展してきたが、近年域外原料への依存度の高まりとともに工業の中心地域が移動したり変化したりしていることを理解する。 	<p>〔世界の諸地域、西アジア・中央アジア・北アフリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、中央アジアはシルクロードの中継点として多くのオアシス都市が発達し、その交易で多くの利益を生み出してきたことを理解する。 ・例えば、OPEC以外の国の産油量の増大などOPECの相対的地位の低下などの近年の石油情勢を理解し、それが日本に与える影響について理解する。 ・例えば、この地域で政変や地域紛争がたびたび起こる原因や近年の政変や地域紛争の動向について理解する。 <p>〔世界の諸地域、中南アフリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、アフリカの経済発展を阻む要因の一つである民族対立が、列強による植民地分割を背景にもつことを、複数の事例を含めて理解する。 ・例えば、モノカルチャー経済からの脱却に向けて、様々な取組がなされていること理解する。 ・例えば、南アフリカの抱える国内の経済的格差や居住・都市問題について理解する。 <p>〔世界の諸地域、ヨーロッパ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、EUという経済的、政治的統合について、時系列的に説明できるとともに、加盟国の経済的格差等、EUが直面する課題を説明できる。 ・例えば、ヨーロッパの東西南北それぞれにおいて見られる多様性について、民族・宗教・衣食住などから、2～3の事例を挙げて説明できる。 ・例えば、ヨーロッパの工業地域の立地類型を説明できる。また、近年の工業の中心地域の移動や変化を、その背景とともに説明できる。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
	<p>〔世界の諸地域、ロシアとその周辺諸国〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ロシアの国土や自然環境について知る。 ・例えば、ロシアは多様な民族構成であることを知る。 ・例えば、ロシアが世界有数の産油国、天然ガス産出国であり、近年経済発展していることを知る。 <p>〔世界の諸地域、アングロアメリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、アメリカの農業が、東西に地域区分できることを理解する。 ・例えば、アメリカの主要な工業地域の分布を知る。 ・例えば、アメリカ、カナダが多くの移民を受け入れてきた多民族国家であることを理解する。 <p>〔世界の諸地域、ラテンアメリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ラテンアメリカの国々が多様な人種、民族構成であることを理解する。 ・例えば、ラテンアメリカに大土地所有制が残っていることを知る。 ・例えば、ブラジルのアマゾン川流域の開発とともに、BRICsの一国として経済発展してきたことを理解する。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>〔世界の諸地域、ロシアとその周辺諸国〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ロシアの国土について、面積や自然環境であることを具体的データに基づいて理解する。 ・例えば、ロシアの民族問題を理解する。 ・例えば、ソ連崩壊から現在に至るまでのロシアの経済状況の変化について理解する。 <p>〔世界の諸地域、アングロアメリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、アメリカの農業が、気候環境を基にして東西に地域区分できることを説明できる。 ・例えば、アメリカの工業生産額、工業製品輸出額、エネルギー消費量が世界一であることを理解する。 ・例えば、アメリカ、カナダが多くの移民を受け入れてきた多民族国家であることを、移民の出身地と関連付けて理解する。 <p>〔世界の諸地域、ラテンアメリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ラテンアメリカの国別の人種、民族構成を理解する。 ・例えば、ラテンアメリカに残る大土地所有制は植民地支配の影響を受けており、地域によって大農園の呼称が異なることを理解する。 ・例えば、ブラジルの経済発展をモノカルチャー経済からの脱却と関連付けて理解するとともに、アマゾン川流域では熱帯林の破壊や土壌侵食が発生していることを理解する。 	<p>〔世界の諸地域、ロシアとその周辺諸国〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ロシアの国土について、面積や自然環境を、カナダと比較をしながら説明できる。 ・例えば、ロシアが抱える国内あるいは隣国との民族問題について、1～2の事例を挙げて説明できる。 ・例えば、ソ連崩壊から現在に至るまでのロシアの経済状況の変化について、歴史的背景とともに説明できる。 <p>〔世界の諸地域、アングロアメリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、アメリカの農業が、気候環境を基にして、適地適作と呼ばれる農業地域に分化していることを説明できる。 ・例えば、アメリカの鉱工業の地域的変容について、シリコンバレーやサンベルトなどの事例を踏まえて理解する。 ・例えば、アメリカのラティーノや黒人などのマイノリティの問題を踏まえ、多様な文化を尊重しながら調和した社会を築くことの重要性について理解する。 <p>〔世界の諸地域、ラテンアメリカ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ラテンアメリカの国々の多様な人種、民族構成について、歴史的背景を踏まえて説明できる。 ・例えば、ラテンアメリカの大土地所有制とその農業近代化への影響を理解する。 ・例えば、ブラジルのアマゾン川流域の環境保全の取組を理解する。また、ブラジルと日本との経済的結び付きについて、時系列的に理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 現代世界と日本</p> <p>現代世界における日本の国土の特色について、多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。</p>	<p>〔世界の諸地域、オセアニア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、オセアニア各地域の民族構成を知る。 ・例えば、オーストラリアが石炭、鉄鉱石、ボーキサイトの世界有数の輸出国であることを知る。 <p>〔我が国の自然環境の特色と自然災害〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境の特色を理解し、過去に多くの自然災害に見舞われてきたことを知る。 <p>〔我が国の産業の発展〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業構造の変化と課題について、明治前半、大正から戦前まで、戦後1970年代まで、1980年代以降に大別して知る。 <p>〔我が国の人口問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は少子高齢化の進展により、様々な課題が発生していることを知る。 <p>〔我が国の抱える諸課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国が抱える地理的な諸課題を探究し、解決の方向性や将来の国土の在り方を知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>〔世界の諸地域、オセアニア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、現在のオーストラリア社会が多文化主義であることを理解する。 ・例えば、オーストラリアの経済が農産物や資源の輸出に依存してきたことを理解する。 <p>〔我が国の自然環境の特色と自然災害〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境の特色を踏まえ、過去に起きた多くの自然災害を理解する。 <p>〔我が国の産業の発展〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業構造の変化と課題について、歴史的経緯を踏まえて理解する。 <p>〔我が国の人口問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は少子高齢化の進展により、様々な課題が発生していることを理解する。 <p>〔我が国の抱える諸課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国が抱える地理的な諸課題を探究し、解決の方向性や将来の国土の在り方を理解する。 	<p>〔世界の諸地域、オセアニア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、オーストラリアの民族政策について歴史的背景を踏まえて説明できる。 ・例えば、オーストラリアの貿易相手国の変遷について、歴史的背景を踏まえて説明できる。 <p>〔我が国の自然環境の特色と自然災害〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境の特色を踏まえ、様々な自然災害について、主な原因、対応、対策、課題について説明できる。 <p>〔我が国の産業の発展〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業構造の変化と課題について、歴史的経緯を踏まえて説明できる。 <p>〔我が国の人口問題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は少子高齢化の進展により、様々な課題が発生していることを説明できる。 <p>〔我が国の抱える諸課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国が抱える地理的な諸課題を探究し、解決の方向性や将来の国土の在り方を、1～2の事例を挙げて説明できる。